

ロシアと 中国、 北朝鮮

ロシアのプーチン政権はウクライナをとりこむ願望を持ちながら、その試みに失敗するたびに行動を強硬化させ、逆にウクライナが敵対姿勢を強めるよう追い込んでいった。現在もウクライナに全面戦争をもたらして4年近く続けながら、ウクライナを従属させることも、宣言した領土を確保することもできていない。ロシアはウクライナを攻撃するだけでは足りず、西側諸国の支援意思を弱めることを願って、恐怖をふりまく手段を実行している。その一環として、中国と軍事協力を深め、中国との協調を振り切ってもベラルーシに核兵器を配備する計画を表明し、北朝鮮との軍事協力により軍事技術拡散の危険をもたらしている。

2026

1/13 (火)

16:40~18:10

日時

講師

やまぞえ ひろし

山添 博史氏

防衛省防衛研究所

地域研究部 米欧ロシア研究室長



○プロフィール

1975年大阪府生まれ。ロシア安全保障政策と国際関係史を専攻
2004~05年にロンドン大学スラブ東欧研究所でロシア研究修士
2005~06年にモスクワ国立大学歴史学部にて研究生として滞在
2008年に京都大学人間・環境学研究院で博士号を取得、同年から防衛研究所勤務
■業績 「ロシアの戦争と国際規範：中国、北朝鮮との関係をめぐる懸念」増田雅之の編著
『不均衡なパートナーシップ：中国、ロシア、北朝鮮』（防衛研究所、2025年11月）
「ロシアの核兵器をめぐる不安定—ウクライナ侵攻拡大後の威嚇効果の拡張と規範力の低下—」『軍縮研究』（2024年3月）
「ロシアの東方進出と東アジア：対露境界問題をめぐる清朝と日本」岡本隆司編
『宗主権の世界史：東西アジアの近代と翻訳概念』（名古屋大学出版会、2014年11月） など

●申し込み方法

下記アドレスまたはQRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/6f8iHbdvWJXPwAcD6>

○申込期限：2026年1月12日（月・祝）

申込は先着順とし、定員となり次第締め切りとさせていただきます。



中京大学名古屋キャンパス
1号館 清明ホール

会場

◎参加無料（事前申込）

主催 中京大学社会科学研究所